

《第 20 号》「地球と暮らしをどう守るべきか」

田丸せつ子(東京都生活学校連絡協議会会長)

東京都生活学校連絡協議会(68校)は、長年にわたって環境問題の話し合い・学習・調査・対話集会(行政・企業)の実践活動を続けてきました。今年度のテーマは「21世紀の寿命——地球と暮らしをどう守るべきか——」です。行政に先駆けての取り組みは、活動の大きな成果を挙げてきました。しかし、現在もごみは増え続け、ごみの削減は、国民の生活にとって緊急かつ重要な問題になっています。スーパー・コンビニで無料で配布されるレジ袋は年間300億枚といわれています。生活学校は買物袋を持参する運動(マイバッグ運動)を推進し、レジ袋のごみの発生抑制に努めてきました。

また、レジ袋をめぐる議論が種々展開される状況の中で、住民の本当の気持ちはどうなのか調査するために、2005年7月～8月にかけて13,299人の協力を得て全国調査を実施しました。レジ袋の調査としては大規模なもので、各地の生活学校のメンバーの意識の高まりを感じました。

今後私たちは、増加するごみの減量の啓発は勿論のこと、販売店の自主的有料化についても働きかけを行い、住みよい地域社会にしていくための運動を推進して行きたいと思っています。これらの活動をしていく中で、環境問題は、子どもの時から学ぶ必要があると痛感している昨今です。

以上